

# JAMCA ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



No.18

1998年7月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会  
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31  
 ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066  
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
 ☎03-3601-2535 FAX03-3601-2988

## パソコン 教育利用の勧め

東京工科専門学校理事長 山本 眞  
 全国自動車整備専門学校協会副会長

私は全国専門学校情報教育協会の会長も務めているので、パソコンの教育利用について述べてみる。いま、全国の専門学校から成るインターネット教育開発協議会で、文部省の研究委託予算をもらって、インターネットを使った遠隔教育の技術的開発（プラットフォーム<sup>(1)</sup>の製作）と教育的開発（コンテンツ<sup>(2)</sup>の制作）を行っている。

なぜ情報技術を使った教育をしようとしているか。一つは、良くできたカリキュラム・教材による教育がいつでも、どこでも受けられるためである。仕事をしながら勉強する社会人にはニーズが高い。学生の自宅学習環境にも期待できる。二つには、教材が教員の手作りでできるためだ。教科書を自分で出版するのは大変だし、シミュレーターを作るのも骨が折れる。パソコンなら、教員が自分なりに工夫した図解も、シミュレーションも容易である。それが一番授業をおもしろくする。三つ目は学生



と教員のコミュニケーションのためである。授業中の質疑応答はなかなか期待できないが、パソコン上のQ & Aだと躊躇なく行う。レポートの提出もスムーズになる。一学生との質疑応答が公開されることで、他の学生の理解が進む効果もある。四つ目は、試験演習は問題の電子化が分類や検索に最適である。用語解説もハイパー・リンク<sup>(3)</sup>で教科書や辞典を引いて理解することができる。さらに五つ目は、こうした授業を受けることで、学生は自然とパソコンに慣れ、いわゆる情報リテラシー<sup>(4)</sup>を身につけていく。

一方で、パソコンをやっていると

「おたく」になって、視野が狭くなるとか、実習主体の専門学校には無用だという評価もある。しかし実習データもパソコンに入れ、整理し、グラフ化することができるし、そのデータが意味するところ（原理原則など）やいろいろなバリエーションをパソコンのシミュレーションで理解するのは、数式で理解するより数段わかり易い。パソコンは道具だと考えればよい。では、道具がないと勉強ができなくなるという懸念が出るが、算盤から電卓の際も同じように言われたものの、今では電卓を教育的でないという人は少ない。

社会に出れば、企業の中はパソコンだけである。営業も、経理も、もちろん設計や工場でも使う。整備業界も、これから部品のカatalogから点検マニュアルまで電子情報になり、それを検索し、使うには情報リテラシーが必要不可欠になる。このリテラシーは「習うより慣れよ」で、専門学校生向きだと私は思っている。

注(1) ソフトウェアの一つ。定まった目的を持つアプリケーション・プログラムに対して、中身を自分で設計して作り込んでいくプログラム。  
 注(2) プラットフォーム上に造る中身、内容。この場合、教材や成績管理表などがある。  
 注(3) インターネット画面でよく見

るように、文字や絵をクリックすると他の画面（解説など）に飛んで行く仕掛け。

注(4) 字が読める、書ける能力をリテラシーという。いま、コンピューターを使いこなすことが同様なコミュニケーションの基礎能力となってきたので情報リテラシーという。

### CONTENTS

- 2面 OPINION
- 3面 北から南から
- 4・5面 特集・パソコン授業
- 6面 協会トピックス
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教授法・編集後記